

「平和の創造」への道

五井平和財団の活動には、持続可能な明るい世界の実現に向けて、豊富な経験・見識、深い洞察・英知を有し、様々な分野で活躍する方々がご協力くださっています。

五井平和財団設立25周年、機関誌『平和の創造』100号を記念し、多くの示唆を与えてくれた方々と教育事業に参加してくれた若者たちに、2つの問いにお答えいただき、現在地から平和な未来を展望すると共に、改めて私たち一人一人が、自分事として「平和を創る」ことについて考えたいと思います。

問1▷平和な世界を創造するために、何をご自身の使命とされ、どのようなことに尽力されていますか。

問2▷ご自身の取り組みが、どのような進化をする(あるいは、どのような課題を乗り越える)ことで、平和へのさらなる貢献につながるとお考えですか。

瀬谷ルミ子

認定NPO法人REALS
（Reach Alternatives）理事長



答1▷武力紛争により犠牲が生まれてから嘆くのではなく、争いが起きる前に予防する、すでに起きた争いは悪化しないようにする、そして、争いがひとたび落ち着いた地域では、再び起きないように平和を築く「争い予防」の取り組みを行っています。

具体的には、シリア、アフガニスタン、南スーダンなど中東、アフリカ、アジアで紛争の予防・解決やコミュニティの再生に取り組む人材を育成し、行政・警察とも連携したコミュニティの仕組みづくりを行っています。難民・避難民、女性、若者など、紛争地や途上国で主に被害者として位置付けられてきた人々が、平和の担い手となることに注力しています。今ある危機に対しては、世界各地で緊急人道支援を通じて、年間数万人以上の方々の命をつなぐ支援や、アフガニスタンでは命を狙われる女性活動家たちに国外退避・保護支援を千人以上の方々にも行ってきています。

答2▷マガザやウクライナなどの状況を見て絶望している人もいるかもしれませんが、でも、**私たちはまだ、平和のために手**

を尽くし切ったわけではない。例えば、女性が主体的に交渉人や署名人として参加した和平プロセスは成功率が35%上昇することが分かっていますが、実際に女性が参加している和平プロセスはたったの9%です。

だとしたら、例えば、世界の全ての和平プロセスに女性の参画が実現すれば、世界は3割以上平和になる。女性のほかに、社会の意思決定から排除されがちな若者や市民団体が参加した場合も和平プロセスの後退する割合が下がります。

REALSはコミュニティレベルで女性や若者、現地団体の育成を行っており、多くの平和の担い手を生み出してきましたが、これからはさらに政治・政策の意思決定にそれらの人々が誰かの言いなりではなく、自らの意志のもと参画できるような取り組みに注力していくことで、**世界の平和に貢献するための「平和のためののびしろ」への挑戦を今年から本格的に開始**しています。そして、これらの取り組みを進めるためのご支援や仲間も募集中です。 <https://reals.org>